

明治の開拓の歴史にふれてみよう

●那須野ヶ原は扇状地

水が地下に浸透してしまい地下水は豊富な反面、きわめて表流水が乏しい土地であり、江戸時代以前はあまり人が住んでいませんでした。

●明治の元勳たち

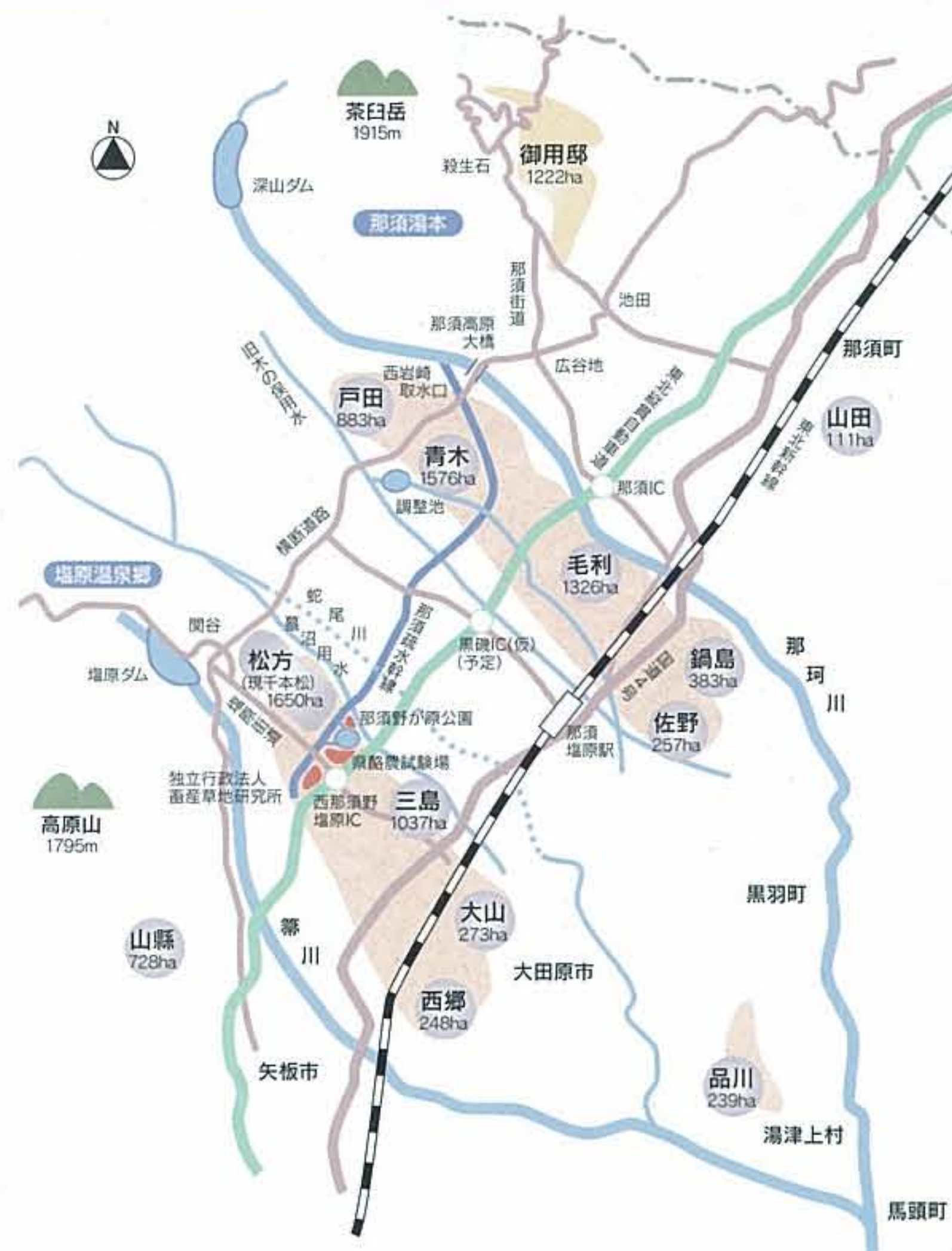
本格的な開発は、明治以降、郷土の先達 矢板武、印南丈作や大山巖、西郷従道、松方正義、青木周蔵、山縣有朋、品川弥二郎ら元勳たちの大農場方式による入植・開拓からであり、この開拓を支えたのが、那須疏水の開削でした。

●那須疏水

那須疏水は、明治18年（1885年）に政府が土木局の予算の10分の1に当たる約10万円の経費を投入し、国の直轄事業として造られました。いわば、当時の国家的大プロジェクトだったのです。その那須疏水も100年を経過し、いまでは周囲の風景に溶け込んでいます。

このように那須地域は、日本が近代国家として生まれ変わった明治初期の、新しい国造りのロマンが、今なお息づいている土地柄であり、那須野ヶ原には、人々が100年かけて育ててきた優れた自然があります。

明治期の主な華族農場の展開



松方別邸 まつかたべってい (P4地図③)

松方別邸は、明治36年に松方正義（明治の元勳、大蔵大臣や総理大臣を歴任）の別荘として建てられた洋館です。大正天皇が皇太子のとき遠陽陥落（日露戦争当時）の報に接し万歳をしたことから「万歳閣」の名があります。建設から100年が経過しますが、今もなお、会員制の別荘として利用されています。
※千本松牧場の敷地内にあります。館内の見学はできません。



那須疏水 なすすい (P4地図④)

那須疏水は、明治18年に県令の三島通庸や印南丈作、矢板武らの尽力により開削されました。それにより原野であった那須野ヶ原の開拓が進み、緑豊かな大地へと生まれ変わりました。那須野ヶ原の歴史にとって切り離すことのできないものです。また、福島県の安積疏水、京都府の琵琶湖疏水とともに日本三大疏水とされています。



疎水通り そすいどおり (P4地図⑤)

県道53号線と県道369号線を那須疏水に沿って進んだ通りを「疎水通り」と呼んでいます。この通りは、平成6年まで陛下が那須御用邸で御静養される際にお通りになる「お成り通り」となっていました。6月には通りのあじさいが見頃になります。



道の駅「明治の森黒磯」
みちのえきめいじのもりくろいそ (P4地図⑥)

敷地内には、青木周蔵那須別邸の他、レストラン、ファームマーケットがあり、アイスクリームやパンの他、地元で栽培された新鮮な野菜などが販売されています。また、青木別邸前に広がる花畑には、毎年8月にひまわりが咲き誇り、その光景は大変見事です。
※月曜日 9:00~18:00
(12月~3月は9:00~17:00) 0287-63-0399



青木周蔵那須別邸 あおきしゅうそう
なすべってい(P4地図⑦)

青木周蔵（ドイツ特命全権大使、外務大臣、アメリカ大使を歴任）那須別邸は、明治21年に建てられました。中央が2階建、左右に平屋部分が延び、バルコニーやベランダが張り出し、外壁が白いウロコ状のシングル壁で我が国では非常に珍しい建築です。平成11年12月1日に国の重要文化財になりました。

※入館料大人200円 子供100円 9:00~18:00
(12月~3月は9:00~17:00) 0287-63-0399



西岩崎頭首工 にしいわさき
とうしゅこう (P4地図⑧)

那珂川に架かる那須高原大橋から200m~300m上流に、那須疏水の取り入れ口があります。西岩崎の取り入れ口は、明治18年の那須疏水の開削以来、3回の大きな改修を経て現在に至っています。近くには親水公園があり、古い取り入れ口などを見ることが出来ます。



縦道 たてどう (P4地図⑨)

那須塩原市千本松から大田原市親園を結ぶ10.6kmにも及ぶ国内屈指の直線道路です。現在県道として利用されており、那須野ヶ原の平坦さ広大さを象徴する道路です。
この道路は、明治初期に行われた関八州三角測量の基線として整備されたものです。



那須野が原博物館
なすのがはらはくぶつかん (P4地図⑩)

「那須野が原の開拓と自然・文化のいとなみ」のテーマのもとに、平成16年4月に開館いたしました。博物館は、那須野が原をフィールドとし、歴史・民俗・考古・美術分野を対象とする総合的な博物館として活動を展開しています。

※観覧料大人300円 高校・大学生200円 小中学生100円
(特別展開催時の料金はその都度定めます)
9:00~17:00 0287-36-0979